



NY発

小池絵未の国際機関探訪

皆さん、こんにちは！小池絵未です。

今年は、日本が国連に加盟して60周年ということで、世界で活躍する国際機関の日本人職員の方を私の目線で捉え、紹介します。

少しでも多くの皆さんに関心を持って頂ければと思います。

◆今回訪問した国際機関

国連事務局

◆お話を聞いた方

相良祥之さん

国連事務局

政務局(DPA)

政策・和平調停部 政務官補

①今の仕事について詳しく教えてください。

政務局が世界中で実施している活動の中から、うまくいった事例や教訓を抽出し、組織的にまとめるナレッジ・マネジメントというのが主な仕事です。



たとえばナイジェリアで2015年にあった選挙では、国連が主導して事前に大統領候補者や政党間で様々な合意を取りつけるなどして、政権交代が起きたにも関わらず大きな混乱が起きずに済みました。

こうした紛争予防の成果や教訓がレポートとしてまとめられ共有されることで、今後の国連の活動がより効果的、効率的に実施されることに繋がります。

②いつ頃、国際機関で働こうと思いましたか？

国連で働きたいと具体的に考え始めたのは大学院のとき、20代後半になってからです。

学生時代から国際政治を勉強するのが好きで、大学院では日本政府の元大使や外交官、元国連職員の先生のもとで研究する機会にめぐまれました。

国連の第一線で活躍された先生方の話を聞くうちに、次第に実務家としての国連職員に興味を持つようになりました。

③ 学生時代はどのような勉強をしましたか？

大学は慶應義塾大学法学部で国際政治や安全保障などを勉強しました。

さらに東京大学公共政策大学院において、国際紛争や国連の平和活動(PKO等)について研究しました。



④ 国際機関に入る前はどのような仕事をしてきたのですか？

大学を卒業してIT企業に就職し、新規事業開発や事業提携、プロジェクトマネジメントを担当しました。大学院には社会人になって4,5年目の頃、働きながら通っていました。

大学院を修了したのち、JICA(国際協力機構)に社会人採用で転職しました。

JICAでは国内外の関係省庁と連携しながら、中南米やカリブ地域の農村開発や水産開発プロジェクトの立ち上げ、プロジェクトマネジメントに携わりました。

⑤ どのような方法で国際機関に入りましたか？

民間企業とJICAで8年間ほど社会人を経験したのち、外務省の旧平和構築人材育成事業に合格し、IOM(国際移住機関)スーダン事務所にUNV(国連ボランティア)として派遣されました。

その後も引き続きコンサルタントとして勤務し、スーダンには2年間滞在しました。

その間に、以前から応募していたJPOに合格し、国連事務局の政務局(DPA)で2015年から勤務しています。

⑥ スーダンではどのようなお仕事をされたのですか？

スーダンでは、ダルフルや南スーダンなどの紛争から逃げてきた人々(国内避難民)に対する人道支援や平和構築に携わりました。

国際機関では、フィールド(現場)での実務経験がとても重要です。

特に、ダルフルの国内避難民キャンプに住む若者に対して建築やミシン縫いなどの職業訓練をおこない、働くことの楽しさを伝え、それによって生き甲斐を持ってもらうというプロジェクトが印象に残っています。

若者の失業は紛争の根本原因のひとつですが、ダルフルでは食糧や水など人道支援の提供で精一杯でした。

持続的な平和(Sustaining Peace)を達成するために、こうした生計向上に関わる活動を続けていくことは大切だと思います。



**⑦今後のキャリアについて
どのようにお考えですか？**

今後も引き続き、国連の平和と安全保障 (Peace and Security) の分野でプロとして貢献していきたいと考えています。

またニューヨークの本部だけでなく、実際に紛争が起きているフィールドとも行き来しながら働いていきたいです。

⑧国際機関を目指している方にメッセージをお願いします！

国連には30歳前後ではいつてくる人がほとんどです。あまり焦らず、まずは自分の関心のある分野を大学や大学院でとことん極め、ぜひ20代の若いうちに途上国のフィールド(現場)を訪れてください。

そこで見聞きし肌で感じるなどして五感で感じたことが、国連で仕事していく上での原動力になります。そして、いろいろな経験をしながら成果を積み重ね、半歩ずつでいいので、目指す国連職員の道に向かって着実にキャリアを伸ばしていくことが大切です。

(国連で働くのが向いているのは)毎日学び続けられる人、チームワークを大切にできる人、そして世界中のいろんな場所で多種多様な人達と仕事するのが好きな人だと思います。

<告知>



国連YPPは、国連事務局が若手の優秀な候補者を選抜し育成するプログラムで、修士号や職務経験がなくても応募できます。

今年の募集分野は2種類、応募期間は5月19日(木)～7/19(火)までで、書類審査を通過した方は筆記試験が12月14日(水)に開催されます。

◆募集職種

- 1 Economic Affairs
- 2 Information and Systems Technology

◆応募資格

年齢制限: 32才以下(1984年1月1日生まれ以降)

学歴: 学士号以上

言語: 英語又は仏語

職務経験: 問わない

筆記試験日: 12月14日(火)

詳細は、以下で確認ください！

国際機関人事センターHP

<http://www.mofa-irc.go.jp/apply/ypp.html>

⑨ 今回の取材を振り返って。
感じたこと。

相良さんにお話を伺って、沢山の事を学びました。

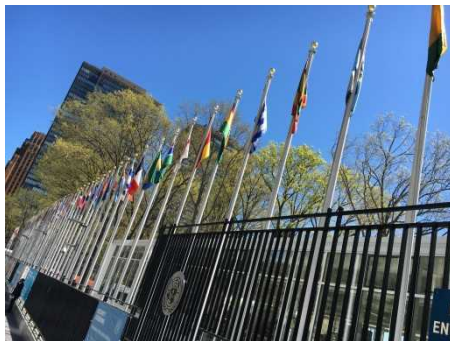
まず、相良さんのように民間の企業から国連に転職される方は珍しいと思いました。

現在、紛争は世界各国様々な場所で起きています。難民問題等の深刻な問題が起こっている中で、自分の意志で日本を飛び出し、世界平和に関わるお仕事をしている相良さんが輝いて見えました。

そして、若いうちに現地のフィールドに行き経験が積む事の大切さを感じました。日本にはJPOという魅力的なプログラムがあり、毎年多くの方が合格して国際機関でのお仕事に従事することができるそうです。

こんな素晴らしいチャンスがあるなんて知らなかったし、そのチャンスを逃してはもったいないと思いました。

相良さんは、今のお仕事では世界各国の方とお話ができるようで、JPOとしての活躍が国連で働く就職活動の一環である事も知りました。着実に夢を叶えている相良さんを、今後もチアリーダーとして応援していきたいと思います！



小池絵未 (Emi Koike)

1983年11月7日生まれ。東京都渋谷区出身。

高校から競技チアを開始し、3年連続で日本選手権大会第3位。米国ウェスタン・ケンタッキー大学に進学。大学のチアダンスチームに所属し、2005年全米大学チア・アンド・ダンス選手権で優勝。

その後、NHL ナッシュビル・プレデターズ、アトランタ・ホークス、NHL アトランタ・スラッシャーズのダンスチームのメンバーとして活躍。2011年からはNFLのチアリーダーとしてニューヨーク・ジェッツで活躍。

NFL、NBA、NHLの米国3大スポーツリーグでチアリーダーに選出されるのは、日本人としては史上初。2013年チアリーダーを引退し、日本テレビ NFL 倶楽部の現地リポーターとして活動中。ニューヨーク在住現地スポーツリポーターとして、NFLだけでなく、NBA、MLBの取材にも携わっている。

外務省 国際機関人事センターNewsletter

「小池絵未のNY発国際機関探訪」VOL.1

出演：相良祥之 国連事務局政務局 政策・和平調停部
政務官補

取材地：NY

2016年5月25日発行



外務省 国際機関人事センター

jinji-center@mofa.go.jp / 03-5501-8238

<http://www.mofa-irc.go.jp>



<https://www.facebook.com/MOFA.jinji.center>



日本の国連加盟60周年
Japan in the UN: 60th Anniversary